

第 2 回 沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業について

令和 7 年 3 月 27 日
沖縄企画部交通政策課

目 次

1. 令和6年度の事業概要について
2. 県民等の移動・交通に関する主な声
3. 持続可能な沖縄社会構築に向けた
移動・交通に関する課題
4. 次年度以降に向けた展開（検討段階）について（案）

1. 令和6年度の事業概要について

(1) 事業のねらい

- 国が進める沖縄リ・デザインの取組と連携し、本年度は本島全域で**大学生や高校生等へのワークショップ・アンケート、移動困難者へのヒアリング・アンケートを実施し、多くのペルソナ※の声が反映された『県民等が望む移動・交通の姿』(暫定版)**を取りまとめる。
- **次年度以降、本事業を発展的に推進し『県民等が望む移動・交通の姿』を取りまとめ、R8年度の具体的な実証実験等に繋げることで、沖縄県地域公共交通計画の実現に寄与する公共交通施策の推進を目指す。**

※具体的あるいは典型的な人物像の意、スペイン語では人や人格、ラテン語では仮面

(2) 事業の実施概要

大学生等へのワークショップ

これからの沖縄社会を担う学生世代を対象に、**各圏域での日常生活や様々なペルソナも意識**した中で、県民等が望む移動・交通の姿を探るための**ワークショップ**を実施

対象

【北部圏】	名桜大学約 30名 沖縄高専 約 80名
【中部圏】	琉球大学約110名
【南部圏】	沖縄大学約110名
合計 約330名	

※各WS 2回の延べ人数、傍聴学生含む

高校生等へのアンケート・ワークショップ

全県立高校の生徒・保護者を対象に、日常生活での**通学に着目し、通学に必要な交通や送迎に関するアンケート**を実施

対象

全県立高校51校（全日制在校生約3.6万人）
の約 4 割弱の高校生と保護者から回答

高校生	約13,300名
保護者	約 2,200名

※県立高校数と生徒数はR6沖縄県学校基本統計速報より

+

送迎交通による渋滞への影響が顕著な中部圏、南部圏の高校を対象に、望む移動・交通の姿を探るためのワークショップを実施

対象

【中部圏】	普天間高校	約30名
【南部圏】	浦添高校	約30名

移動困難者等へのヒアリング・アンケート

様々な移動困難者（高齢者、若年妊産婦、一般妊産婦、身体障がい者）からみた、県民等が望む移動・交通の姿を探ることを目的に、**ヒアリング・アンケート**を実施

対 象

○ヒアリング

【北部圏】	高齢者	約20名
【中部圏】	若年妊産婦	約10名
【南部圏】	身体障がい者	約30名

※各団体イベント、施設来訪者に協力依頼

○アンケート

【中部圏】 一般妊産婦約170名

※自治体での定期健康診断時等に協力依頼

参考 ペルソナカード

小・中学生

9歳 女性



小学校3年生。母親が通勤ついでに車で送迎してくれる。もう少し友達と自由に遊んだり、図書館で本を読む時間がほしいと思うこともある。



13歳 男性



引越してきた地域で、中学校に入学したばかり。新しい友だちと週末遊びに行きたいが、どこにどうやって行けばいいのか、まだよく分かっていない。

12歳 男性



小学6年生。通学路の交通量が多いため、小学2年生の妹と通学し、放課後も学童に迎えに行く。中学生になったら部活も始めたいが、妹のことも心配。



高校・大学生

18歳 女性



受験生。大学進学予定だが、自宅から通うには少し遠い。車を買ったり免許を取るお金をつくるのは厳しいため、志望校を変えるべきか悩んでいる。



20歳 男性



大学2年生。毎日、大学と家と近所のバイト先を行き来する生活。飲み会に誘われることも多くなってきた。就活も始めるとなると、行動範囲が広くなりそう。

16歳 女性



高校に入学したばかり。父親に毎朝送迎してもらっているが、部活の朝練があり、父親に負担を掛けているのではと心配している。



就業者

26歳 男性



就職して4年目。中心地に近いアパートで一人暮らし。パートナーと同棲しようと物件を探す、家賃や互いの通勤距離を考えると、ちょうど良い場所がない。

43歳 男性



派遣の仕事をつらつらとしている。1～3年ごとに職場が変わるため、その度に出勤時間が変わり、生活サイクルが整わない。契約社員のため通勤費は出ない。

58歳 女性



病院で食事の準備をする仕事についており、平日は朝5時出勤。まだ眠い中、車を運転するのは少し不安。院内の駐車場はなく、自腹で駐車場を契約している。

子育て世帯

32歳 女性



出産後、元の仕事を続けたかったが、子育てのために近所のパートに切り替えた。夕方には1歳になる子どもを迎え、夕食の買い物をして家に帰る。

44歳 男性



上の子が高校に入学したため、朝早く起きて学校まで送迎している。会社に早く到着するため、車内でいつも暇をつぶしている。朝練の時期はさすがに辛い...

29歳 女性



育休を終えて、そろそろ職場復帰予定。保育園がなかなか探せず困っている。市内に住む親に助けてもらいたいが、足が悪いので、頼みづらい。

移動困難者

57歳 男性



自宅が急な坂の上であり、免許返納した高齢の親は自分での移動が困難に。通院や買い物に連れ出す必要がある。有給などを利用しているが、限界がある。

36歳 女性



ひとり親で、小学生になる子どもを育てている。保育園に職場や役所など移動が多い。車を手放せたら、もう少し栄養のあるものを食べさせてあげられるのに...

86歳 男性



昨年病気をし、手術後はほとんど車椅子で移動。以前は公民館で将棋の集まりなどにも参加していたが、最近はおっぴろ人との付き合いが減ってしまった。

高齢者

72歳 男性



引退後しばらく経つが、まだまだ元気。週末は夫婦で外食をするのが楽しみ。長年運転しているが、息子に心配されており、免許を手放そうか悩んでいる。

68歳 女性



週に1回、病院に通う必要があり、パートで働く娘に車で送ってもらい、買い物もその時にすませている。本当は映画館などへ気軽に出かけたい。



63歳 女性



足が悪く、徒歩で長距離の移動は大変。3kmほど離れたところに娘と孫が住んでいる。娘はそろそろ職場に復帰予定で、孫の面倒をみるのを手伝いたいが...



観光客

23歳 女性



学生時代からの友人と5人で初の沖縄旅行。ペーパードライバーだが唯一免許を持っているので運転手になるはめに。美ら海水族館ってこんなに遠いの...?



52歳 男性



家族で久しぶりの沖縄。子どもたちも、成長し、アクティビティよりリゾートや買い物を楽しみたい様子。ホテルに来るだけなら車はいらないが、荷物は多い...

42歳 女性



歴史好きで、沖縄には何度も来ているリピーター。最近新しい歴史文化施設も増えて嬉しいが、車以外では行きにくそう。もっと地域を知りたいんだけどな。



1. 令和6年度の事業概要について

(3) 事業の実施内容

大学生等へのワークショップ

◆ワークショップの実施概要 ※参加者数は延べ人数

実施校	実施日	参加者数
名桜大学	R6.10.29 R6.12.24	約30名
沖縄高専	R6.10.11 R6.12.12	約80名
琉球大学	R6.10.9 R6.12.18	約110名
沖縄大学	R6.10.7 R6.12.6	約110名

基本的な実施構成（成果は学生等が発表）

様々なペルソナの立場でワークショップを実施
1.小・中学生、2.高校・大学生、3.就業者、
4.子育て世代、5.移動困難者、6.高齢者、7.観光客

沖縄の移動・交通に関する現状等の話題提供

1.日常生活での移動や交通で困っていることは何か

2.どんな移動や交通があると助かるか

3.フィールドワークを通して新たな気づきを感じてみる

4.誰がどんなアクションをすべきかを考える

※上記は基本的な構成であり、大学等により構成は異なる

高校生等へのアケート・ワークショップ

◆アンケートの実施概要

	実施日	回答者数
県立高校 ※本島内の全日制全県立高校51校		
生徒	R6.10月～12月	約13,300名
保護者	R6.10月～12月	約2,200名

アンケートの主な構成

【生徒】

- 1.居住地、通学方法、送迎頻度等について
- 2.家族による送迎習慣や送迎について感じることにについて
- 3.送迎から他手段に変更するための問題点等について

【保護者】

- 1.こどもを送迎している理由
- 2.送迎から他手段に変更するための問題点等について
- 3.既存通学支援策等に対する意見

◆ワークショップの実施概要

実施校	実施日	参加者数
浦添高校	R6.12.12	約30名
普天間高校	R6.12.18	約30名

基本的な実施構成（成果は生徒が発表）

沖縄の移動・交通に関する現状等の話題提供

1.高校通学で困っていることは何か

2.どんな移動や交通があると助かるか

3.誰がどんなアクションをすべきかを考える

移動困難者等へのヒアリング・アンケート

◆ヒアリングの実施概要

実施対象	実施日	参加者数
高齢者	R6.11.20	約20名
若年妊産婦	R6.11.7 R6.11.13	約10名
身体障がい者	R6.11.22	約30名

※名護市老人クラブ連合会ゲートボール大会参加者に協力依頼
※沖縄市、うるま市の居場所来訪者に協力依頼
※那覇市身体害者福祉協会来訪者に協力依頼

ヒアリングの主な構成

- 1.個人や家族、車の運転等について
- 2.普段の暮らしとそのため移動について
- 3.移動や交通に対して“こうあって欲しいという”希望

◆アンケートの実施概要

	実施日	回答者数
一般妊産婦	R6.10月～12月	約170名

※沖縄市、うるま市の妊産婦に、出征届時、母子手帳交付時、個別支援員家庭訪問時、定期健康診断（10～12月）等に協力依頼

アンケートの主な構成

- 1.個人や家族、車の運転等について
- 2.普段の暮らしとそのため移動について
- 3.移動や交通に対して“こうあって欲しいという”希望
- 4.妊産婦タクシー等の利用やニーズについて

1. 令和6年度の事業概要について

(4) ワークショップの実施状況

大学生等へのワークショップ

【名桜大学】



【沖縄高専】



【琉球大学】



【沖縄大学】



高校生へのワークショップ

【浦添高校】



【普天間高校】



※プライバシー保護のため、写真の解像度を補正

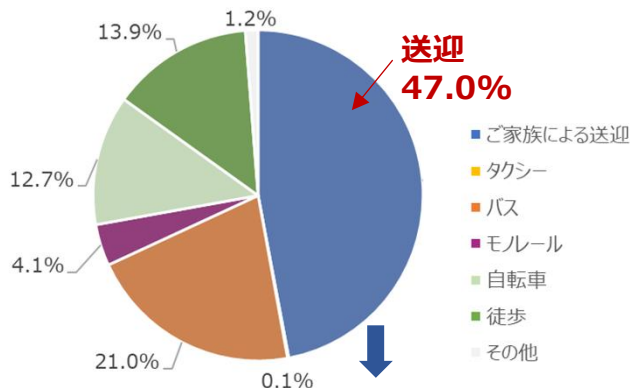
2. 県民等の移動・交通に関する主な声

児童・生徒・学生

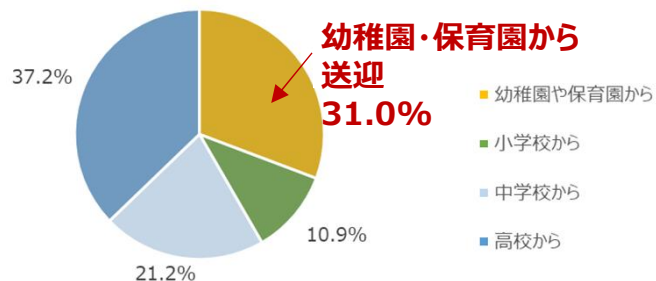
※①、⑥のグラフは、県立高校アンケート調査より

- ① 沖縄は幼稚園・保育園に通う時から送迎習慣が深く根付いており、県立高校生では通学のための送迎が約5割弱を占めている。

【高校登校時の交通手段】



【送迎の開始時期】



- ② このため、小中学校でも通学のための送迎が多い沖縄では、学校周辺の道路も混雑するほか、親子ともに送迎時間に縛られ、それぞれの行動に制約や負担を感じているのではないかと、との声があった。



急いで迎えに行かないと・・・



もっと遊びたいけど・・・

- ③ 高校生や大学生は、バスについて車内混雑や交通渋滞等による頻繁な遅延があるほか、バスの本数も限られ、乗換えが生じたり、運賃も高いこと等から、バス通学を選択しにくい、との声があった。



酷い渋滞・・・



バスはまだ来ない・・・

- ④ 高校生の保護者からは、交通の便が悪く学校選択の幅が狭まる、通学コストがかかり進路希望に沿えない、渋滞による移動時間の大幅な遅れがある等、通学環境がこども達の教育や将来にも影響する、との声があった。



行きたい学校に行けない・・・

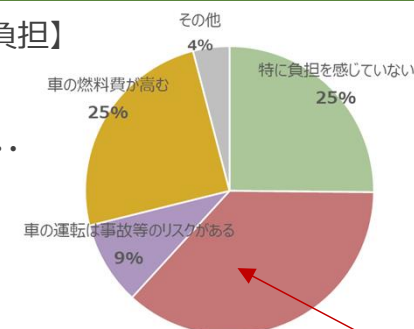
- ⑤ 生活も楽ではないし、通学に必要な支援制度は公平になるよう、所得制限を無くして欲しい、との声があった。



通学に必要な支援は公平に・・・

- ⑥ 通学のための送迎に関しては、保護者から通学のための送迎に要する時間や労力を別に使いたい、との意見が多い一方、送迎はこどもを甘やかしているが甘やかさざるを得ない状況、当たり前を送迎してる習慣から変えていく必要がある、こどもの健康や自立のためバスを利用して社会に出る練習としても慣れておく方がいい、といった声もあった。

【送迎することの家族の負担】



街路灯が無くて、暗く怖い・・・



- ⑦ 沖縄での徒歩や自転車通学については、通学路等が凸凹で雑草も多く通りにくく危ない、街路灯が無いところが多く下校時は暗く怖い危険、だから親が送迎する、といった交通安全面や治安面への懸念の声があった。

送迎に要する時間や労力を別に使いたい37.0%

2. 県民等の移動・交通に関する主な声

就業者・子育て世代

※②のグラフは、H28国道58号沿線民間企業アンケート調査より作成、通勤定期代はyahoo路線情報検索より作成

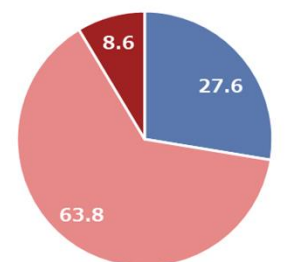
- ① 沖縄は、所得水準が低く非正規社員も多いが、地価や家賃も高騰し、限られた収入の中郊外住宅に転居している人も多いのでは
ないか、これにより、通勤時間も長くなって負担が増えたり、渋滞が減らないのではないか、との声があった。

家賃が安い郊外へ...



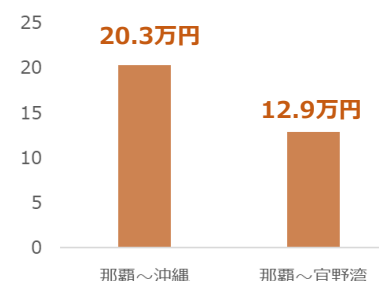
- ② 沖縄は、全国の中でも渋滞が著しく、モノレールやバスも通勤時間帯はとても混雑している。そのような中でも、沖縄の企業は通勤手当を支給している割合が低いため、通勤コストの自己負担も大きいのではないかと。特に、公共交通にかかる運賃を抑えたいためマイカー通勤している人も多いのではないかと、それが渋滞に拍車をかけ、バスの遅れにも影響しているのではないかと、との声があった。

【通勤手当の支給割合】



■ 全額支給 ■ 定額支給 ■ 未支給

【バス6か月通勤定期代】



通勤手当もでないし、
通勤混雑も疲れるし...



- ③ マイカー通勤者も、勤務先の駐車場が利用できない場合に、有料駐車場を探しまわって、出勤時間に遅れたり、余計な渋滞を引き起こしたり、コスト面等での負担もあるのではないかと、との声があった。



駐車場探しも大変...



- ④ 通勤ついでに送迎も多く、遠回りや渋滞によって、親も仕事に間に合わない、疲れて仕事の集中力が欠ける、迎えのため有休を取らなければならない等、送迎が家族にストレスや仕事にも負担をかけている、との声があった。

通勤や送迎で疲れる...



- ⑤ 小さい子どもがいると、保育料も負担だし、お迎えのため近くで仕事をしないといけなく、自分のやりたい仕事を諦めたり、生活時間にゆとりが少なく、親は生活に不安やストレスがある。また自宅・保育園・買物・職場等が離れていると、日常生活のための移動が大変との、声があった。

- ⑥ 中学生や高校生を育てる世代になると、学校が遠い場合、バス等も利用しづらく、仕方なく車で朝早くに送迎している、との声があった。

- ⑦ そのため、親は自分の使える時間が減り、送迎で時間調整による車内で無駄な時間が生じたり、子どもも親の出勤に間に合うよう早起きしないといけなく、親や車に何かあったら学校に行けないとハラハラする毎日、などの声があった。

- ⑧ 子連れだと、人への迷惑や荷物が多いなどでバスは利用しにくい、との声があった。また、周辺の道も歩きにくいし、狭い道で車の往来が多く危険なので、ベビーカーや子どもを連れて散歩するのが不安との声があった。



子どもが小さいと
ゆとりが...
仕事も選べない...



生活するための
移動はあちこち
に行くので大変...



2. 県民等の移動・交通に関する主な声

高齢者・移動困難者

- ① **高齢者**は、足も弱り自由に移動できなくなったりする。元気なうちは自分で車を運転することもできるが、徐々に運転に対する安全性が低下する恐れもある。しかし、妻は免許がないので、自分が生活のために運転を担うしかないため、今後もできる限り運転していくしかない。もし車を運転できなくなったら施設に入るだろう、との声があった。
- ② **介護している親**は、外出が減って運動不足やますますの衰えも懸念され、なるべく一緒に外に出ようとしているが、自分の時間がとれず、限られた時間の中で急いで買物などの用事を一気に済ませないといけない。自分が免許返納した際に1人で生活ができるのか心配、との声があった。
- ③ **年金暮らしになると経済的なゆとりも少なく、公共交通も運賃が高いので、行きたいところへ行けず、娯楽も徐々に少なくなり、ストレスを溜め込みやすくなる。また、緊急時の移動手段がないため、誰かの助けがないと外に出かけられなくなる、との声があった。**



車がないと生活に困るので、今後もできる限り運転していくしかない・・・



歳をとると、何処に行くのも助けが必要で、気づかいやストレスも・・・

- ④ **妊産婦**からは、特にお腹が大きくなると車の運転に不安がある、買物も一人では重いものが買えない、との声があった。また、子連れで運転していると、こどもが泣いたら焦ってしまいヒヤリとすることもある、道がキレイになればお腹の張りも減るかもしれない、との声もあった。
- ⑤ 母子ともに経済的に生活の質が十分確保できない人も、沖縄は移動に車が必須であるため、車を手放したくても手放せないとの声があった。ひとり親が多い沖縄では、日常生活に必要な活動を一人でこなさなければならないため、移動も多く、時間的にも金銭的にも余裕がないので、車の維持費やガソリン代にかかるお金をこどもの食費に回したい、との声があった。



お腹が大きかったり、小さいこども抱えると運転も不安・・・



ひとり親だから生活のやりくりも大変・・・



- ⑥ **障がい者**は、知人等による送迎が難しい場合、ヘルパーさんをお願いしているが、障がい保険支援サービスは、月の支援時間や利用目的に制約もあって、時間がかかる公共交通は使えない、移動そのものに制約がある、との声があった。
- ⑦ また、バスを利用しようにも、ノンステップバスでないと乗車は困難でバス停までの移動も難しい、福祉タクシーは運賃が高いので経済的な負担がある、との声があった。
- ⑧ また、近くに頼る人がいない場合は外出したくなくなるし、車椅子は道路や歩道にちょっとした支障物があるだけで、通れなかったり遠回りが生じて大きな負担になる、との声があった。

障がい者は、どこに行くのも、いろいろな制約がある・・・



バスやタクシーの利用、歩道を移動するのも大変・・・



2. 県民等の移動・交通に関する主な声

観光客・県民等に共通

- ① 観光客は、レンタカー利用が多いが、運転したくない、道が分かりにくい、渋滞で時間がかかるなどの課題もあるほか、観光客には公共交通が利用しにくく、レンタカー以外で観光できる仕組みが十分ではないのではないか、との声があった。
- ② レンタカーを利用するにも、道は混んでいるし、観光案内も少なく、運転中に一息つける休憩施設が少ないのではないかと、との声があった。
- ③ 観光客にはどのバスがどこに行くのか分かりにくいし、バスも遅れ思うように観光地を回れない、との声があった。ここに行けば沖縄観光や移動の全てが分かるといった観光ターミナルがあれば、そこに人は集まるし、賑わいにも繋がるのではないかと、との声があった。
- ④ 沖縄は海や空、文化や自然など様々な資源があるのに、多様な手段による観光移動の自由度が少なく、バスや船、自転車、キックボードなど様々な交通の情報や、運転を気にせず景色も眺めながらゆっくり移動できたり、乗ることそのものが楽しい観光交通が乏しいのではないかと、との声があった。
- ⑤ また、荷物もたくさんあるので、持ち歩くのも大変だし、歩道も少なく狭いのでキャリーバックを持って移動もつらいのではないかと、との声があった。



- ⑥ 交通渋滞には、道路整備、モノレール延伸、LRT導入などもあるが、道路を公共交通と車に棲み分ける考え方も重要ではないか。交差点のAIカメラ等で流れを制御したり、車を小型モビリティ化し専有面積を減らすことで、渋滞緩和を図れないか、との声があった。
- ⑦ バスの利便性にはいろいろな課題があるが、遅延の一つの要因でもある道路の渋滞は、人口や事業所の集中も影響しているのではないかと、またバス利用者を増やすキャンペーンや車の利用を抑制することも重要ではないかと、との意見があった。
- ⑧ 運転手不足については、運転手を人気の職業にすることを目指し、そのブランド力を上げる方法を考え、もって収益の向上・賃上げにつなげることが重要ではないかと、との意見があった。
- ⑨ OKICAは、全紙幣やコンビニでチャージできて欲しい、アプリ化して欲しいなどの声があった。また、バスでのチャージは、後ろに待つ乗客の視線が気になる、バスの遅れの要因にもなる、スムーズな支払いがバスをより良い雰囲気にし、みんなが乗りたくなるのではないかと、との声があった。
- ⑩ バスに関しては、コンビニやアプリ、クレジットカードでの定期券購入を要望する声があった。また、遅延証明のアプリ化、運賃支払いをsuica、PayPay、クレジットカードなどに対応させるなど多様化することで、外国人や観光客も使いやすくなるのではないかと、との声があった。
- ⑪ モノレールも、バスとの結節を見直し、沖縄らしさを取り入れた駅のアート化や、景観が楽しめるよう路線整備してはどうか、との声があった。また、駅の魅力が少ないため、駅に人が集まるまちづくりも重要ではないかと、との声があった。



3. 持続可能な沖縄社会構築に向けた移動・交通に関する課題

県民等全体に共通する課題

様々な県民等の声から想定される共通した課題は、①移動コスト（移動コストの低減又は必要な支援の拡充）、②移動時間（移動の確実性の確保及び渋滞による時間損失・負担の低減）、③安心と安全性（安心と安全性が確保された移動環境の整備）の3点が重要な課題と考えられる。

①移動コスト

（移動コストの低減又は必要な支援の拡充）

移動するためのコストに関しては、限られた所得の中で車に大きく依存せざるを得ない社会となっているため、燃料費や維持費の負担が、県民の日常生活に影響を与えている。

さらに、公共交通と自動車の間での移動支払い額の開きがあることや、公共交通コストの実費負担額が大きいことも、車に依存せざるを得ない社会を形成している大きな要因であり、沖縄の社会全体で取り組むべき大きな課題と考えられる。

②移動時間

（移動の確実性の確保及び渋滞による時間損失・負担の低減）

移動における時間損失に関しては、まさに全国ワーストの道路の渋滞であり、これによるバスの走行性、運行の確実性が確保できていない大きな要因の一つとなっている。

無駄のない確実な移動時間の確保は、沖縄の労働生産性向上を図るためにも重要であるほか、高校通学をはじめ、就業者や多くの世代で、バスの信頼性を高めることにも繋がるため、沖縄で取り組むべき必須課題と考えられる。

③安心と安全性

（安心と安全性が確保された移動環境の整備）

安心と安全性に関しては、移動困難者に対応したバリアフリー化の拡充はもとより、こどもから高齢者まで安心して移動できる移動環境を整えることが課題であり、支援の面でも様々な関連分野との連携が求められる。これは、高齢化社会での交通安全の確保にもつながり、その他治安・教育・福祉・まちづくり等の分野との連携により安全・安心な移動のしやすさを向上していくことが、沖縄の基本的な課題と考えられる。

3. 持続可能な沖縄社会構築に向けた移動・交通に関する課題

児童・生徒・学生に関する課題

① 未就学児の通園等の環境把握及び小中学校への行動変容の全地域での継続的な取組

未来の沖縄を担う世代では、**幼少期からの送迎習慣が当たり前**となっているが、特に通学距離が比較的長い高校通学には、様々な解決すべき課題は複合的に絡んでいる状況が伺えた。このため、**まずは幼稚園・保育園といった未就学児の通園等の環境把握**（通園バスや送迎の状況）や、**小中学校への行動変容の全地域での継続的な取組**が重要な課題と考えられる。

② 学校周辺における道路状況の確認と必要な対策の推進

高校通学では、歩けるような近い距離でも、保護者等による送迎が一般化し、過度な送迎で道路の混雑に拍車をかけている可能性がある。一方、**徒歩通学や自転車通学**についても、**道路に街灯が少なく安全面で懸念がある、道路が凸凹で坂や車も多くて自転車通学は危ない**、との声も聞かれる。このため、**学校周辺における道路の状況を確認し、必要な対策に取組むことが課題**と考えられる。

③ 送迎に依存しない通学のための交通環境の構築

徒歩や自転車等で通学が難しい場合は、バス通学を検討したいところだが、**渋滞による移動時間の大幅な遅れ**や、厳しい経営環境等に起因する供給不足による**バス利便性の限界（通学時間帯の限られたバス、車内混雑等）**もあり、必ずしも**十分な通学のための交通環境が整っていない**との声があり、スクールバスを運行して欲しいとの声も多い。このような状況を踏まえると、**家族等による通学のための送迎に依存せざるを得ない状況**も致し方ない側面もあるが、できる限り**送迎に依存しない通学のための交通環境を構築していくことが大きな課題**と考えられる。

④ 複雑で多方面にまたがった確認や取組等

保護者からは、**通学のための交通による移動コストの負担**、マイカー通勤ついでによる**送迎の負担**、送迎に伴う労働への影響の声が聞かれる。さらに、交通の利便性や渋滞による混雑や遅れ、コストの負担は、**こども達の進学先の選択にも影響する**との声を鑑みると、通学のための交通が、日常生活の時間・労力・コストに加え、こどもたちの未来にも影響しかねない重大な課題と捉えなければならない。このため、沖縄の未来を担うこども達のためにも、**高校通学に関するもの（通学時刻の集中、校区の広がり、学校選択や進路への影響等）、通学バス支援制度のあり方、送迎に依存せずとも通学できる足の確保等、複雑で多方面にまたがった確認や取組等が課題**と考えられる。

これら課題への対応は、**道路混雑の緩和**や**持続可能で利便性の高い公共交通ネットワーク形成**にも大きく関係するため、**通学のための交通環境の構築に取り組むことで、渋滞緩和、公共交通利用の促進、県民の健康や労働生産の向上等**に繋がることを認識しておくことが重要と考えられる。

3. 持続可能な沖縄社会構築に向けた移動・交通に関する課題

就業者・子育て世代に関する課題

① ピーク時に集中する就業者の柔軟な勤務体制の拡大に向けた取組

就業者や子育て世代でも大きな問題となっている**沖縄の渋滞**については、その多くが**通勤需要が集中するピーク時に生じている**。このため、県民の**ライフスタイルや企業の就業体制**について、より合理的なあり方を社会全体で検討し、必要な取組を進めていくことが課題である。

具体的には、時差出勤、フレックス制度、テレワーク等をこれまで以上に強力に普及・拡大することであり、これにより渋滞の要因でもある**ピーク時の移動需要を低減していくことが課題**と考えられる。

② 就業者の通勤コスト低減に向けた取組

沖縄の公共交通による通勤コストは、鉄道がある内地に比べ割高である中、**通勤手当が十分支給されていない現状**を踏まえると、このままではクルマ中心社会からの脱却が困難と考えられる。

このため**企業側が通勤手当を拡充していくために必要な施策や、公共交通コストに対する様々な支援の可能性等**について検討し、必要な取組を進めていくことが重要と考えられる。

③ 通勤に伴う移動時間の短縮と確実性の向上

道路渋滞の緩和に向けた段階構成のある体系的な**道路整備**や効果的な渋滞対策を進めていくこと、**過度な自動車利用からの転換**に向けた取組を進めることはもとより、**モノレールやバスの定時性確保や混雑緩和**に向け、**走行性と輸送性に優れた公共交通の拡充**に取り組むことが課題である。

そのため、バスレーンの延長、バス乗降時間短縮、運賃支払方法等の利便性向上、バスやモノレールの輸送力向上、限られたリソースを踏まえたバス網効率化等の様々な公共交通関連施策について、関係機関と連携した取組を着実に進めていくことが課題と考えられる。

これらによる通勤ついで送迎の低減も期待される。

④ 子育て世代の移動に対する負担と不安の軽減

小さな子を抱える世代では、親の**経済的、時間的な負担を軽減するための保育環境や支援の拡充**を求める声があるほか、**車に依存しないで安心して利用できる公共交通の拡充**（子連れで利用しやすいバス、タクシー券の配布等）、**安全・安心に子ども達が移動できる道路環境の整備等**が求められる。また、未就学児から高校生までを抱える子育て世代では、こどもの通学のための送迎にかかる負担が大きいため、**児童・生徒・学生に関する課題同様の取組を進めることが課題**と考えられる。

郊外化や目的地が分散されている沖縄においては、これら課題への対応に当たり、**生活や移動の効率性**からみた**職住が近接したまちづくり**や、**日常生活機能が集約され子育て世代でも暮らしやすいまちづくり**についても、今後検討していくことが重要と考えられる。

3. 持続可能な沖縄社会構築に向けた移動・交通に関する課題

高齢者・移動困難者に関する課題

① 高齢者が車に依存することなく、元気な日常を過ごすための移動手段等の確保

車を運転できない高齢者や、免許返納後の高齢者等に対しても、家族等に気兼ねなく日常生活に必要な移動等を確保することは、高齢者の生活、コミュニティ、健康等を維持するためにも欠かせない。

このため、既存のバス・タクシー利用等に対する各種割引制度の拡充や、高齢者の歩きやすい範囲を考慮したドア・ツー・ドアに近い移動支援サービスを一層展開することが課題である。また、移動そのものが負担となる高齢者に対しては、地域への移動販売など移動目的側から訪問するサービスの拡充等も重要な課題と考えられる。



② 高齢化社会における安全・安心な道路交通環境確保

歩くことが億劫になったり、家族のため、生活のために今後も車を手放せない高齢者の増加が予想されるため、高齢者による運転の事故が増加する恐れも否定できない。

このため、運転免許返納に向けた様々な支援の拡充に加え、高齢者に対する運転教習等の強化、運転支援機能がある車利用の促進、道路の交通安全確保策の拡充等、今からあらゆる方策を幅広く検討・準備していくことが課題と考えられる。

③ 妊産婦や生活困窮者の暮らしを支えるまちづくり

妊産婦は、本人の体調や小さなこどもに気遣いしながら、保健所や医療施設、買物や保育園、その他多くの用事のための移動を、限られた時間でこなし、生活のゆとりが保ちにくい状況となっている。また、沖縄に多いとされる若年妊産婦やシングルマザー等は、生活に必要な移動のために、生活費をやりくりしながら自家用車の維持コストを負担せざるを得ない人が多いと想定される。

このため、医療、保育、居場所づくりなどの必要な支援策を引き続き講じながらも、多くの移動を要せず、用事もまとまった地域で済み、必要な移動サービスの効率化も可能な、妊婦や生活困窮者にも優しいまちづくり（目的施設の集約）を進めることも課題と考えられる。

④ 障がい者でも移動しやすいバリアフリー化の徹底と必要な移動支援の拡充

障がい者が気兼ねなく移動するためには、少なくとも道路、歩道、駅、バス、タクシー、モノレール等の車両のバリアフリー化の徹底が欠かせない。さらに、障がい者の移動が割高になるような場合（福祉タクシー等）もあるため、必要なコスト支援のあり方についても課題がある。また、移動にヘルパーが必要となる障がい者は、ヘルパー支援の制度的な制約もあるため、福祉面からの移動支援のあり方について確認や拡充等に向けた検討が重要と考えられる。

これら課題への対応には、県民一人一人が移動困難者に寄り添う姿勢を持つことが重要であるほか、これから到来する超高齢化社会に備え、日常から健康増進に資するような移動・生活習慣を努めていくことが、県民全員の大きな課題と考えられる。

3. 持続可能な沖縄社会構築に向けた移動・交通に関する課題

観光客・その他の課題

① 多様で魅力的な観光移動サービスの拡充

観光では、レンタカー以外で観光できる仕組みが十分ではないとの声や、レンタカーを利用する場合でも、渋滞緩和や観光案内、休憩施設の充実を求める声があった。特に観光客がバスやモノレール等の公共交通を利用するためには、楽しく観光できる環境を整備していくことも課題と考えられる。

このため、観光客の手荷物への対応、運賃支払いの利便性向上といった点に加え、観光客にも分かりやすく、乗りたくなる魅力を備えた公共交通を整備することも重要であり、加えて沖縄の資源や文化の情報とも触れ合える観光交通ターミナル等を展開するなど、観光客も集まる賑わいあるまちづくりを展開していくことも課題と考えられる。また、観光地では必ずしも公共交通が十分ではない地域もあるため、観光移動との連携による日常的な公共交通の維持確保に繋げていくことも重要な課題と考えられる。

② 既往施策や制約にとらわれず、県民等の声に耳を傾けた取組検討

県民の声には、運賃支払に関する新しいアイデア（OKICAのアプリ化、遅延証明のアプリ化など）、人口知能（AI）の活用や自動車の小型化による渋滞緩和策などの新しいアイデア、バス利用キャンペーンや広報強化、バス運転手のブランド向上、沖縄らしい駅のアート化等の貴重な意見もあったところである。今後の県民等の移動・交通を考えるうえでは、既往施策や制約にとらわれず、県民等の声に耳を傾けた取組検討も重要な視点と考えられる。

移動・交通に関する県民、サービス、支援の側面からみた課題

◆ 県民等一人一人の考え

- ・ 私たち一人一人は、幼少期から通学のための送迎の慣習が、沖縄社会に車利用が当たり前の感覚を深く根付かせている可能性があり、“何でわざわざバスに乗るのか”といった声があるのも現実である。このため、私たちは、日常生活における移動・交通のあり方について、自らの利便性、効率性、合理性の視点に加え、社会性や持続性の視点から見つめ直し、沖縄社会のために自らができることを考えていくことが重要である。

◆ 移動・交通に必要なサービス

- ・ 交通サービスを提供する側は、今一度県民等のたくさんの声と現状のサービス等の確認を行い、その必要性と実行性等を踏まえながら、可能な対策を早期に展開していくことが課題である。一方で、交通サービスを提供するためには、限られたリソースでの交通サービスの効率化や他分野との連携による共創の工夫を行いながら、幅広い県民の声にできるだけ応えていくことが課題である。
- ・ 沖縄経済を支える企業側は、県民が働くために必要な移動・交通にかかる時間、労力、コスト、資産、社会的な影響等について、その実態と課題を今一度捉え、従業員の働きやすさ、労働生産性の向上に努め、企業の社会的な貢献と価値を高めていくことが課題である。

◆ 移動に必要な支援

- ・ 交通・移動を支援する側は、関係する労働、福祉、教育、観光、都市等の多様な分野にかかわる様々な支援の声について、関係部署間で情報共有や議論を行いながら、その事実と課題の確認を行い、必要な施策を検討・協議し、県民等が移動しやすい社会の実現に向け取り組むことが課題である。

4. 次年度以降に向けた展開（検討段階）について（案）

- ① 今年度は、高校生、大学生、妊産婦、高齢者、身体障がい者など、幅広い範囲で移動・交通に関する声を捉え、様々な課題を整理してきたところである。しかし、県民等が抱える問題や解決すべき課題は多岐に渡り、その課題に対応した取組を関係者と協力して展開し、よりよい沖縄の持続可能な交通環境を一刻も早く築き上げていくことが基本的なミッションとなる。
- ② 沖縄の大きな課題でとなっている“道路交通渋滞の緩和”、“公共交通サービスの利便性向上”、“交通まちづくりの推進”、“県民等の行動変容”は、これまでも様々な取組が進められてきたが、その課題は相互に関係し対応が難しい社会要因等も複雑に絡み合っているのも事実である。特にバスの走行性・定時性にも影響する道路交通渋滞は、沖縄の限られた交通インフラの中でピーク時に多く集中するマイカー通勤や通学のための送迎等が影響しており、マイカー通勤需要の低減や平準化に向けた取組も欠かせないテーマとなる。
- ③ このため、企業や従業員に対して、現状のマイカー通勤や通学のための送迎が要因となる沖縄の社会問題に対する理解と協力を得ながら、企業側で取り組めることや行政を含めた社会全体で更に検討、調整すべき課題などを明らかにしていくことが重要と考えられる。
- ④ また、今後ますます増大が見込まれる観光需要への対応は、沖縄経済振興に欠かせない視点でもある。これまでも観光客によるバスの混雑や観光での公共交通の利便性向上等の声も聞かれたが、レンタカーへの過度な依存などの課題を抱える中、観光客の公共交通利用や移動・交通に対する声等を捉えていくことも重要な課題と考えられる。
- ⑤ 以上からR7年度事業は、企業へのヒアリングやその従業員等へのワークショップ等を通した、通勤マイカーや通学のための送迎交通に関する就業者の声を捉えるとともに、観光客から移動や交通に対するニーズ等を捉えることを検討している。これにより、沖縄交通リ・デザイン実現に向けた課題を総合的に捉え、推進すべき施策の具体化等を目指すとともに、喫緊の交通問題に対して他関連事業の動向も見据えたR8年度実証実験の展開を目指すことを検討している。

沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業の展開（検討段階）

